

2022 年度 事業計画書

自 2022 年 4 月 1 日
至 2023 年 3 月 31 日

公益財団法人 日本テレビ小鳩文化事業団

2022年度 事業計画書

1. 視聴覚障害者の日常生活の支援及び生活支援の援助者養成

(1)手話放送の制作支援

「NNNニュースサンデー」に出演する手話通訳士の派遣事業。当該番組は、毎週日曜日午前6時15分～6時30分までの全国放送ニュース。

聴覚障害者の方々への情報サービスの一助として、手話通訳を画面右下にワイプで挿入している。2022年度も東京都聴覚障害者連盟から推薦を受けた4名の手話通訳士がローテーションを組み、年間52回の手話放送に携わる。

(2)点字カレンダーの製作及び無料配布

点字カレンダーは、1976年より製作し全国に無料配布して以来、45年間続けている基幹事業。2022年度も写真付き点字カレンダーを製作し、関東を中心に全国の施設や個人に約2万部を無料配布、加えて、全国の日本テレビネットワーク各社の協力を得て2万部余りの無料配布を実施する。

点字カレンダーには、月ごとに美しい写真を付ける事により晴眼者と視覚障害者とのコミュニケーションを促進する願いが込められており、写真についての解説文を点字で表記しカレンダーに同封している。次回配布する点字カレンダーのテーマは「日本の名山」を予定。

製作と配布は、社会福祉法人日本点字図書館の協力を得て実施している。

(3)手話スクールの開講と手話の普及事業

「手話スクール」は、手話ができる人を一人でも多く増やし、聴覚障害者

への生活支援に貢献していただくことを目的に、1975年より現在まで毎年開講している基幹事業。

2019年度からは、1年生（入門編）、2年生（基礎編）の講座に加えて、新たに3年生（上級編）の講座を開講して現在に至っている。

その目的は、

手話をさらに深め、地域で手話を生かした活動や本格的に手話通訳者を目指す人は、そのための講習会を受けなければならないが、その講習会を受けるには、最低3年間の手話の学習経験が必要となる。以前は、2年間の授業を終えた後、更に別途1年間の講習会に通う必要があったことから、その人たちのために新たに3年生の講座を開講したのである。

授業は、土曜日に神田や、お茶の水の会議室で年間約25回開講する。

コロナの影響で延期になった2021年度の手話スクールを、4月～6月実施。2022年度の手話スクールは7月から開始予定。

1月からのコロナ感染者急増により長く休講が続いた。手話の授業は、対面が基本であるが、オンラインによる手話の授業を決断し、3月から開始した。 パソコンやIT環境が整わない方には、対面での授業を行うことにして、オンラインと対面の「両面」での授業体制に切り替えた。費用面では倍増するが、コロナ禍の中でも「手話の学びの場」を絶やさず、継続させていく所存である。コロナ感染が小康状態になれば、すべて対面授業に切り換えるなど柔軟に対応していく。

22年度は、1年生（46期生）約50名、2年生（45期生）約40名、3年生（44期生）約30名が参加する予定。

(4)ラジオから発信する視覚障害者支援の情報番組の放送

視覚障害者に対して、晴眼者がどのように接すれば良いのか、また、日々

の生活の中で、視覚障害者は、何を必要としているのか等を考える上で参考となる情報をラジオを通じて発信し、視覚障害者と晴眼者が共に生きていける社会を促進することを目的としている。2014年4月に放送を開始以来、今年度で9年目を迎える番組。放送はアール・エフ・ラジオ日本の毎週土曜日午前8時15分から30分までの15分間。

メインパーソナリティは、日本テレビの杉上佐智枝アナウンサー。

また、2年前より温めていた企画で、番組連動企画として、視覚障害者のための「音声図書」を日本テレビアナウンサーの協力により3月から制作を開始。

日本点字図書館の音声図書ネットサービス図書館「サピエ」や、CDの貸し出しを通じて、視覚障害者の方のための音声図書を提供していく。

また、鉄道ホーム事故を食い止める交通安全キャンペーンにも参加する。

2. 視聴覚障害者を支援する団体への助成

(1) 角膜移植・再生医療への助成

2010年度から開始した角膜移植・再生医療研究費への助成。

助成先：移植・再生医療を支える会

(2) 聴覚障害児の学校への助成

団体生活へのスムーズな順応を図ることを目的とした、耳の不自由な生徒約60人が参加する夏期郊外学習に対する助成。

助成先：学校法人 日本聾話学校

(3) 視覚障害者福祉DVDの製作及び生活支援活動への助成

目の不自由な人を援助する人材の指導・育成のためのDVDの教材の製作

に助成。また、同じ目的で行う地方講演会にも助成。

助成先：社会福祉法人 日本視覚障害者職能開発センター

(4)「盲人との接し方」ガイドブックの製作への助成

小冊子「盲人に接する人々のために」1万部の製作と配布に助成。

援助者が、盲人と一緒に歩く方法や危険物の扱い方などを学ぶ内容。

助成先：社会福祉法人 日本視覚障害者職能開発センター

(5) 点字技能検定事業への助成

日本盲人社会福祉施設協議会が行う点字技能検定に助成。受験にかかる費用の一部等に使用される。この検定試験の目的は、点字関係職種の専門性と認知度を高め、点字の普及と点字の質の向上を図ることにある。合格者は厚生労働省より「点字技能師」として認められる。

助成先：社会福祉法人 日本盲人社会福祉施設協議会

(6)視覚障害者ケア専門技術認定講習会への助成

全国の各種老人ホームの職員や在宅福祉に携わるヘルパー等を対象に、視覚障害者へのケア技術向上や、介護職員への指導者の養成を目的とした講習会への助成。講習会にかかる費用の一部に使用される。

助成先：特定非営利活動法人 全国盲老人福祉施設連絡協議会

(7)その他の助成

- ・聾者の団体が主催する野球大会に優勝・準優勝・最優秀投手賞楯を贈呈

助成先： 全東京ろう社会人軟式野球連盟

全日本ろう社会人軟式野球連盟

- ・視覚障害者が参加するブラインドテニス大会への助成

助成先：日本ブラインドテニス連盟

- ・チャリティ映画会開催に助成

映画のチケット購入

助成先： 社会福祉法人日本点字図書館、社会福祉法人日本聾話学校

- ・本間一夫文化賞に助成

記念品代

助成先： 社会福祉法人日本点字図書館

- ・東京都盲人福祉大会に助成

助成先： 公益社団法人 東京都盲人福祉協会

- ・失明原因の解明と失明予防・知識の普及と啓発を図る。

助成先： 公益財団法人 日本失明予防協会

- ・東京都社会福祉協議会関係会費

助成先： 社会福祉法人 東京都社会福祉協議会

など視聴覚障害者のための生活支援や、支援団体への助成を予定している。

3. 文化及び芸術に関する各種の公演、講座等

(1) グランプリ・コンサート 2022 (公財)日本室内楽振興財団と共催

次代を担う演奏者の登竜門のコンサートとしてすっかり定着した。公演を通じて室内楽の楽しさ、素晴らしさを伝えるコンサート。

3年に一回開催してきた大阪国際室内楽コンクール&フェスタは、コロナのために、2020年、2021年と休止が続き、2022年も残念ながら休止となった。2023年に第10回コンクールの開催を目指すことになった。

よって、今年もコンクールで優勝した演奏者を招聘しての「グランプリコンサート」は、休止となった。その代替公演を企画検討中である。

(2)想いで詩コンサート2022 主催

世代やジャンルを超えて将来も残していきたい、歌い継いでいきたい日本の名曲を送り届けるコンサート。今年も1960年代から70年代の音楽の黄金時代の名曲を中心に構成する。また海外の名曲も散りばめる。

会場と一体となって、音楽の楽しさ、素晴らしさを全国各地を訪問して伝えていく。

毎回、地元の少年少女合唱団がプロの歌手と共演することが大きな特徴。2022年度は、長崎県長崎市にて開催する。

開催日： 2022年12月23日（金）予定。

会場： 長崎県ブリックホール

また、想いで詩コンサート2022の「スピンオフ特別企画」として、青梅市にある視覚障害者老人養護施設の聖明園・聖明ホールにて、9月4日と、9月18日に、ライブコンサートを行う。(3回連続休止していた)
その他、視覚障害者やヤングケアラーのための福祉コンサート企画も検討している。

(3)スクールコンサート 主催

次代を担う小・中学生の子供たちをメインの対象にしたコンサート。小・中学校の子供たちに、一流のプロの演奏家や歌手のライブの音楽に触れる機会を創り、ジャンルを超えて様々な音楽を楽しんでもらうことが目的。

また、演奏を聴くだけでなく、地元中学校の吹奏楽部や少年少女合唱団が、プロの演奏家や歌手と共演する「参加型」のコンサートであることも大きな特徴である。普段、プロの演奏家、歌手のライブのコンサートに触れる機会が少ない地域を中心に開催している。

全国の小・中学校や、地元の教育委員会や市民ホールと協力して実施する。

9月7日(水) 東京都町田市 町田第一中学校

11月ごろ 東京都文京区 筑波大学附属視覚特別支援学校 予定

2023年 2月 愛知県 岩倉市岩倉中学校 (2022年2月開催予定だったが、延期して開催予定)

これ以外でも、全国の中学校を対象にして参加を呼び掛けている。数回公演を予定。

しょうみょう こうえん **(4) 聲明 公演 主催**

日本音楽の源流といわれ、単旋律音楽に大きな影響を与えた「聲明」と「洋楽器」が共演。「曼荼羅・音の饗宴」をテーマとし、荘厳な読経の響きと美しく幻想的な音楽で構成されたコンサート。毎回 発売と同時に完売する好評のコンサート。

残念ながら、2021年、2022年と2年連続コロナのため、休止となった。3年ぶりの開催になる。

開催日： 2023年2月4日(土) 会場： 東京 第一生命ホール

4. 文化及び芸術に関する事業、活動への助成

(1) 第74回 高円宮杯全日本中学校英語弁論大会に対する助成

英語力と弁論能力を高め、次代を担う中学生に、国際交流の担い手を育成することを目的とした上記大会への助成。2022年度は第74回目を迎える。

助成先： 日本学生協会基金

5. 創立10周年記念事業の開催

1974年に創立した日本テレビ系列愛の小鳩事業団と、1976年に創立した日本テレビ放送網文化事業団が合併して、現在の日本テレビ小鳩文化事業団が創立して2022年4月に10周年を迎える。

2022年度は、その創立10周年記念事業を展開する。

1) 全国各地の盲学校にて、下記日程でスクールコンサートを開催する。

一流のプロの演奏家が、盲学校を訪問して、ライブコンサートを行う。

4月28日（木）富山県立富山視覚総合支援学校

6月30日（木）山形県立山形盲学校

10月14日（金）愛媛県立松山盲学校

11月10日（木）京都府立京都盲学校

12月21日（水）沖縄県立沖縄盲学校

2) 視聴覚障害者との共生をテーマにした、オリジナルオムニバスドラマを創作、公演

日程； 12月10日（土）から11日（日） 2日間4回公演予定

場所； 千代田区全電通ホールにて

視聴覚障害者と健常者が共生するためには、何が求められているか、をテーマにして約10篇のオリジナルのオムニバスドラマを創作し、舞台公演する。

視聴覚障害者も、健常者も誰もが楽しめる公演としたい。

視覚障害者、聴覚障害者の方も役者や、脚本家、制作者として参加する。

6, 障がい（視聴・聴覚）のある生徒のための進学支援制度を新たに創設（詳細は、別紙資料参照）

障がい（視覚、聴覚）のある生徒を対象にして、修学の意欲と能力のあるにもかかわらず、経済的事由により、大学や専門学校、短期大学への進学が困難な生徒を対象にして、進学時に必要な経費を支援する制度を創設する。

進学一時金として80万円を給付する。返済は不要。

初年度は、全国の盲学校、ろう学校に通う生徒を対象にして、約20名程度に給付する。

進学一時金は、志望校に入学した後の4月に給付するため、2023年度の予算から発生する。

申請者の中から、内定者を選考するための

「日本テレビ小鳩文化事業団 障がい（視覚・聴覚）のある生徒のための進学支援選考委員会」を設ける。

選考委員は、日本テレビ小鳩文化事業団の理事5名で構成し、日本テレビ小鳩文化事業団の常駐スタッフが事務局として、事務運営にあたる。

進学支援制度については、日本盲学校校長会、日本ろう学校校長会のご協力により、全国の盲学校やろう学校の生徒へ広報活動を行い周知を図るほか、ホームページやパンフレットの配布などにより、周知徹底を図り、希望者を募る。

進学支援選考委員には、

片石 修三 理事（社会福祉法人日本視覚障害者職能開発センター 理事長）

黒崎 信幸 理事（社会福祉法人全国手話研修センター 理事長）

塩屋 隆男 理事（公益財団法人アイメイト協会 代表理事）

多田 宏 理事（一般財団法人日本介護福祉経営人材教育協会 代表理事）

高橋 知也 理事（日本テレビ放送網株式会社 総務局長）

の5人の理事の内諾を得ている。